



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3574 号 2017.3.30 発行

介護保険法改正案、高所得者は3割負担に

朝日新聞 2017年3月29日

現役世代並みの所得があれば、介護保険サービスの自己負担割合を現在の2割から3割に上げることなどを盛り込んだ介護保険法などの改正案が28日、衆院本会議で審議入りした。政府は「制度の持続可能性のため」と主張したが、野党は「介護サービスの基盤が崩壊する」と批判した。

自己負担割合の引き上げは2018年8月から。対象は政令で定めるため、民進党の中島克仁氏は「国会審議を経ず、簡単に対象を拡大することができる」と指摘。安倍晋三首相は「対象者の拡大を前提としたものではない」と答弁した。

改正案には、現役世代の介護保険料の見直しや、高齢者も障害者も使える「共生型サービス」の導入なども含まれている。



「患者って立場忘れんときや」 看護師3人、障害者に暴言繰り返す 京都市が宇多野病院を処分 産経新聞 2017年3月29日 記者会見する杉山博院長＝京都市中京区

独立行政法人国立病院機構宇多野病院（京都市右京区）で、療養介護サービス利用者で難病による障害がある患者に看護師が暴言を吐いたりベッドを蹴ったりする虐待行為を繰り返していたとして、京都市は28日、同機構に対し、障害者総合支援法に基づく改善勧告と3カ月間の新規利用者の受け入れ停止の行政処分を行った。

市によると、虐待行為が確認されたのは患者3人に対して看護師3人が計4件。虐待行為があるとの通報を受け、市が昨年9月29日、障害者虐待防止法に基づいて調査したところ、同8月31日夜に女性看護師が女性利用者に対し「いじめられたくないんやったら黙っててよ」「患者って立場を忘れんときや」などと暴言を吐いていたことが確認された。

市は心理的虐待行為にあたるとして、同事業所に再発防止を指導。しかし、同11月9日、別の女性看護師が同じ女性利用者に対し、「何言うたかて知らん顔して寝たふりして」などと暴言を吐く事案が起きた。

これを受けて市は同事業所に監査を実施。その結果、大声で叫ぶ利用者に対してベッドの足元のボードを蹴る心理的虐待行為や、頻りにナースコールを使う利用者に一時的にナースコールを手の届かない場所に置いたりするネグレクト（介護放棄）を行っていたことも分かった。

市は、看護師が暴言を不適切としながら虐待という認識を示さなかったことや、指導後も配置転換などの再発防止策を取らなかったことなどから、改善勧告などに踏み切った。

処分を受け、同病院の杉山博院長が京都市内で記者会見。「心理的虐待への共通認識が不十分で、事業者として対応が不適切だった。ご本人やご家族に深くおわび申し上げます」と謝罪した。

杉山院長は虐待の背景について、看護師が感情を抑えきれなかったと釈明。看護師への処分を検討しているとした。

姫路聖マリア病院に重度障害者支援施設 4月開業 神戸新聞 2017年3月29日 中・西播磨地域で初の重度障害総合支援センター＝姫路市仁豊野



重い心身障害がある人の療養や介護を支える「重度障害総合支援センタールド」が、姫路聖マリア病院（兵庫県姫路市仁豊野）内に完成し、4月から業務を始める。総合病院内での開設は全国的に珍しく、家族も含めて医療、生活の両面からのサポートを目指す。

同病院を運営する社会医療法人財団聖フランシスコ会が整備。県と市の事業指定を受けており、同様の施設は中・西播磨地域では初の開設となる。

センターは地上4階、地下1階建て、延べ床面積約7400平方メートル。計80床の居室や診察室、リハビリテーション室に加え、和室や台所、浴室がある「家」のような機能を持つ在宅移行支援室などを備える。

同法人によると、重度障害者は治療が中心の入院か、家族の負担が大きい在宅かを迫られているのが現状。特に子どもは、家族とのコミュニケーションや成長に応じた関わりが必要だが、十分対応できていないという。

同センターは「暮らし」という観点を重視。医師、看護師のほか、保育士や介護福祉士、臨床心理士らを配置し、医療措置と日常生活が「共存」できるよう支援する。内装も木目を取り入れ、窓や広さを確保し、家庭的な雰囲気にした。

小児科医の宮田広善・同センター長は「重い障害があっても、家族や他者との関わりを大切にしながら『暮らす』ことができる。それを実現する拠点として役割を果たしたい」と話す。（宮本万里子）

障害者、高齢者の運転サポートを 佐賀で研究会 佐賀新聞 2017年03月29日



発達障害のある人の運転行動に関する研究を報告した筑波大大学院の小菅英恵さん＝佐賀大医学部

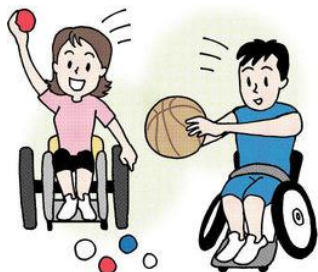
障害者や高齢者が安全に自動車の運転を続けるための手だてを考える研究会が25日、佐賀大学医学部で開かれた。発達障害のある人の運転の傾向や、体が不自由になった後に運転を再開した会社員の経験談が紹介され、暮らしや就労を維持するための社会的なサポートの必要性を確認した。

交通事故総合分析センター（東京）の研究者で筑波大大学院に在籍する小菅英恵さんが、発達障害のある人の運転行動を報告した。ADHD（注意欠陥・多動性障害）の傾向がある人らが事故に遭うリスクを軽減するため、「発達障害で生じやすい事故のパターンを認識してもらおう」など安全運転の方策を説明した。

脳出血で左半身まひになった後、リハビリを続けて職場に復帰し、運転も再開した会社員中島義彦さん（52）＝佐賀市＝は「（障害者の運転は）危ないからと遠ざけるのではなく、運転再開の方法を考えてほしい」と話し、「佐賀は障害者が運転するための支援体制が弱い。運転の可否を見極めるシステムが確立していない」と指摘した。

佐賀大医学部の堀川悦夫教授は「運転は生活と就労に関わる大事な要素。免許返納など、

やめることへの意見が先行しているが、ケースによっては続ける方法もあることを知ってほしい」と訴えた。



パラスポーツの練習場に 4月開校の札幌みなみの杜高等支援学校、障害者向けに無料開放

北海道新聞 2017年3月29日
札幌市は、4月に開校する市立札幌みなみの杜高等支援学校（南区）について、障害者スポーツ（パラスポーツ）の練習場として障害者向けに学校開放する方針を決めた。障害者に限定した学校開放は市内で初めて。車いすバスケットボールや、ボールを投げて目標球への近さを競う「ボッチャ」などの練習が見込まれ、市が目指す2026年冬季五輪・パラリンピック招致に向けて地

元選手の育成を図る。

学校開放事業を担当する市スポーツ局によると、同校体育館を今夏にも、夜間に無料で利用できるよう開放する。運営は市障がい者スポーツ指導者協議会に委託する方針。新年度に車いすバスケやボッチャ、車いすテニスなどの競技用具をそろえる。

「くばら だんだんアート」 福岡で表彰式

産経新聞 2017年3月29日

調味料製造・販売の久原本家グループ本社（福岡県久山町）は28日、障害者が描いた絵画の魅力を広め、福祉への関心を高める社会貢献活動「くばら だんだんアート」の表彰式を福岡県立美術館（福岡市中央区）で開いた。入賞作品は久原本家の商品配送用段ボールに印刷するほか、西鉄バスや西九大運輸倉庫の大型トラックのラッピングにも使われる。

5回目の今年は「みんなで食べたい元気いっぱいごはん」をテーマにした。県内外から680点の応募があり、大賞6作品など計30点が入賞した。

表彰式で河邊哲司社長が「毎年、素晴らしい作品が集まる。この活動や、絵画の魅力がいろいろな人に伝わり、日本の文化のひとつになることを期待している」とあいさつした。共催した一般社団法人だんだんボックス（同市中央区）の神崎邦子代表も「今後は活動を世界に広げたい。ニューヨークで展覧会を開きたい」と語った。

入賞作品は、県立美術館で4月2日まで展示している。入場無料。脳性まひの画家、浅井力也さんの作品展も同時開催している。

4月2日は「世界自閉症啓発デー」 各地で行事

産経新聞 2017年3月29日

4月2日は国連が定めた世界自閉症啓発デー。国内でも毎年同日から4月8日までを自閉症を含む発達障害の啓発週間と定めており、各地で啓発行事が行われる。

東京では2日夜、東京タワーがシンボルカラーの青色にライトアップされる。8日には千代田区霞が関の新霞が関ビルで、「たいせつなことをあなたにきちんとつたえたい～発達障害のこと～」をテーマにシンポジウムが開催される。「地域作りのリーダーの思い」と題して、発達障害の子供の教育に自治体として力を入れている北村正平静岡県藤枝市長らが登壇する。自閉症は生まれつきの脳機能障害で、対人関係やコミュニケーションが苦手。専門家によれば、症状の軽い人を含めると約100人に1人おり、個々の発達ペースに合った適切な教育、支援が重要とされている。

スマホ育児「1日1時間」「寝る1時間前から使わない」 研究会推奨

朝日新聞 2017年3月29日

スマホの1日の利用は1時間にとどめ、寝る1時間前からは使わせないで——。親が手を離せない時などに乳幼児にスマートフォンで遊ばせる「スマホ育児」について、ヤフーなどネット関連業者でつくる「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」（座長・坂元章お茶の水女子大教授）が28日、こんな推奨する使い方を公表した。

研究会は、乳幼児がスマホやタブレット端末などに触れることが増え、成育への悪影響を懸念する声があることから、国内外の研究文献などをもとに検討。3～6歳児の情報機器の利用の目安を報告書でまとめた。



スマホをいじる男の子

1日の利用時間については、目の発達への悪影響が指摘されており、米國小児科学会は情報機器の利用を1時間以内に限ると提言していると紹介。「1時間を上限とし、自宅での遊び時間の半分を超えない」ことが望ましいとした。夜の利用は将来的に睡眠障害や生活習慣病のリスクを高める恐れがあるとし、「布団に入る1時間前までに利用を終える」ことを勧めている。

0～2歳児については「幼児期よりもさらに慎重な対応を求める」としている。

研究会は、保護者向けに適切な利用ができているか確認する16項目のチェックリストも作成。同会のウェブサイト (<http://www.child-safenet.jp/activity/2757/>) で報告書ととも

に公開している。(毛利光輝)

■研究会が報告書で示した「子どものスマホ利用の望ましい例」

- ・ベッドや布団に入る1時間前までには利用を終える
- ・外出中などは1回あたり15分以内にとどめる。1日あたりの利用は1時間を上限とし、自宅での遊び時間の半分を超えないように
- ・動画やゲームなど、受け身で終わる利用は減らす。情報機器だけで完結しない利用方法やアプリの選択を心がける。動画やゲームを利用する際には、年齢相応の内容かどうかを保護者が確かめる
- ・子どもが利用している様子に目を配り、その反応や問いかけには適宜応答する。必要に応じて内容についての説明や話し合いを行う
- ・リビングなど保護者の目の届く場所で使う。食卓やベッド・布団、移動中の車内など、利用すべきでない場所や場面をあらかじめ決めておく

【堺男児遺棄】「行政、捜査機関との情報共有を」 大阪府が検証報告書



産経新聞 2017年3月28日

梶本樹李ちゃんの遺体が見つかった現場周辺。捜査員は「あと1日早く…」と悔やんだ＝2016年11月15日午後、大阪府千早赤阪村（本社ヘリから）

堺市北区の梶本樹李（たつき）ちゃん＝死亡当時（3）＝の遺体が大阪府千早赤阪村の河原で見つかり、両親が傷害致死罪などで起訴された事件を受け、大阪府は28日、有識者による検証報告書を公表した。報告書では、両親らに虐待に関与した可能性があれば、行政間や警察

との間で情報共有を進めるよう指摘した。

両親をめぐっては、おいの死体遺棄容疑で平成25年夏に府警が書類送検。公訴時効で不起訴となった後の同年12月、乳児院に保護されていた樹李ちゃんを引き取った。この際、児童相談所は「事件への関与の程度が不明」として、一家が当時住んでいた同府松原市に事件情報を伝えなかった。

こうした状況に、報告書は「捜査機関との情報共有を促進し、事件への関与の可能性がある場合は、引き取り前に関係機関で情報共有した上で支援体制を構築する必要がある」と指摘。また、両親が樹李ちゃんの定期健診を6回延期しながら松原市が家庭訪問などをしなかったことには、「虐待の可能性を念頭において対応すべきだった」とも言及した。

男性保育士が“女の子の着替え”！？ネットで激しい議論



NHKニュース 2017年3月29日
これまで女性が中心だった保育の現場で、男性保育士の姿をちらほら見かけるようになりました。ところがいま、その仕事内容について、インターネットである議論が巻き起こっています。いったい、何が起きているのでしょうか。(おはよう日本 神津善之ディレクター、報道局 戸田有紀記者)

ネットの議論 きっかけは

きっかけとなったのは、ことし1月に千葉市が発表した「男性保育士活躍推進プラン」です。保育士不足が深刻化する中、男性にも保育現場に積極的に参入してもらおうと策定されたもので、男性用のトイレや更衣室の整備を行うなど、働きやすい環境を整えるための取り組みが書かれています。

ところが、このうちのある部分にネットが反応。

性別にかかわらずに保育を実施することを掲げ、千葉市の市長が「男性保育士も女の子の着替えなどを行う」と、その内容をツイートしたところ、ネットでは次々とツイートが投稿され、思いもよらない方向に議論が進んでい



きました。

その中には、男性保育士を歓迎する意見もある一方で、「男性も女の子の着替えやおむつ替えをするのか」、という驚きや違和感から、「わいせつな事案につながりかねないのではないか」、といった指摘まで。

さらに、「男性保育士には着替えはやってほしくない」、「性犯罪の9割が男」、「気持ちが悪い」など、男性保育士に対する過激な書き込みが相次いだのです。



ネットでこうした議論が広がったことで、実際に子どもを預けている親たちの間でも、漠然とした不安が広がっていきました。

街なかで、子育て中の親たちに聞いてみると、「男性の保育士でも全く抵抗はない」という声の一方で、「子どもが小さいうちは男性保育士でもよいけれど、少し上になってくるとどうかと思う」とか、「おむつ替えは女性の保育士にやってもらいたいと

というのが本音。偏見かもしれないけれど、いろんな事件があるのを見ると少し不安」など、さまざまな意見がありました。

男性保育士論争 影響は現場にも

私たちは、ネット上で巻き起こった論争が、実際の保育の現場に影響していないか取材しました。



東京・北区にある私立の認可保育園。15人の保育士のうち、5人が男性です。この保育園を運営する学校法人の職員で、男性保育者プロジェクトのリーダーを務める、新楽竜夫さんは、ネット上での論争が起きてから、現場の男性保育士たちに影響が及んでいないかヒアリングを進めています。私たちが新楽さんのヒアリングに同行取材した日には、保育士から世間の

目が気になると悩む声が上がりました。

若い男性保育士は、「直接言われたわけじゃないけど、もしかしたらおむつはそういう変な気持ちで変えてるのかなと思われているのかなと、自分の中で思うときがあって、そういうときは自分でも嫌な気持ちになります」と率直な気持ちを話しました。

中堅の男性保育士は「言葉は悪いんですけど、あら探しではないんですけど、男の人がこれやってる、あれやってたというのが、ちょっとしたことが目につきやすいと思う」と、男性保育士が置かれている現状を話しました。

保育士が不足する中、この保育園では男性保育士も積極的に採用してきました。保護者からは、父親のように遊んでもらえると、好意的な意見も寄せられています。しかし、ネット上での議論が今後も広がると、男性保育士の心理的な負担が大きくなるか、危惧しています。

この日のヒアリングを終えた新楽さんは、「少なからず影響は出ているなというのは今の話の中で感じた。性別の部分で、男性だから…と見られてしまうというのは、今の声からも感じたように、丁寧に取り扱っていく必要があると感じた」と振り返り、今後も対応を続けていくことにしています。



保育士 目指す学生は

影響は、保育士を志す学生にも広がろうとしています。

就職活動中の高橋義貴さんもそのひとりです。

大学で保育を専攻している高橋さんは、保育士を目指し、大学生になってからピアノも習い始めました。今では、子どもが好きな曲を両手で弾けるようになり、取材で自宅を訪れた際には「ちょうちょう」を弾いてみせてくれました。保育園での実習も行い、子どもと接する仕事にやりがいを感じ始めていたやさき、ネット上で論争が起こりました。

仕事の一面のみを好奇の目で取り上げ、男性保育士全体が悪いかのような書き込みが高橋さんはショックを受けたと言います。友人の中には、保育士を諦め、一般企業への就職を目指す人もいます。

そうした中で、高橋さんも、保育士という仕事を選んでいいのか、不安を抱えています。「(就職活動に) 影響はないと言ったらもちろんウソになりますし、やっぱりネガティブな考えになっちゃうときもありました。そういうのを聞いてしまうとやっぱり迷ったりという

考えたときもありました。そういうのを聞いてしまうとやっぱり迷ったりという

ときもある」と胸の内を話してくれました。

対策をとる保育園も

保護者の不安に、みずから対策をとる保育園もあります。

板橋区にある私立の認可保育園では、保育士の性別によって業務は区別せず、男性も着替



えやおむつ替えを行っています。

園長の山本慎介さんは、ネット上の議論の広がりを見て、この園の保護者の中にも、不安を感じている人がいるのではないかと考えました。

そこで、これまで取り組んでいたことを改めて文書にまとめ、保護者に公表しました。例えば、保育士がひとりで子どもと接するときには必ず周りに声をかけ、扉を開けることも徹底。着替えの際に、子どもが異性を嫌がった

場合は、同性の保育士が対応。万が一のために、すべての保育室にはカメラも設置しています。

こうした対応について、保護者は、「うちは大丈夫って思うんじゃないくて、きちんと自分のところも一回考えようと思ってくださるのは、とても信頼が上がると思う」とか、「そんなに意識してくださっているんだなというので、先生方も大変だなと思いました」など、好意的に受け止めていました。



山本慎介園長は、「保育園の中というのは一般の人からは目が届きにくかったり、それこそ利用されている方自体も日中の保育の様子だったり、職員の言動はなかなか目に触れる機会が少ないので、伝える努力というのが必要だと思う」と言います。

増え続ける男性保育士

かつての「保母さん」という呼び名は、18年前に「保育士」に改められ、保

育の現場に男性の参入が本格化しました。日本保育協会によると、保育士登録した男性の数は、この10年で2万人から6万人へと増加しています。

東京都内の保育士養成学校で開かれた卒業式を取材してみると、袴姿の女子学生の中に、スーツ姿の男子学生も目立ち、笑顔で卒業証書を受け取っていました。この春、卒業生の4人に1人が男子でした。

共働き家庭の増加などで保育のニーズが高まる一方、深刻な保育士不足の中では、もはや男性の参加なしに「保育」は成り立たなくなっているのです。

しかし、社会ではまだ男性保育士の存在が広く認知されておらず、保育士は十分なトレーニングを積んだ国家資格を持った専門職であるという理解も進んでいません。

保育の現状に詳しい、玉川大学大学院の大豆生田啓友教授は、今回のネット上の論争も、こうした保育士の仕事への理解不足が原因にあると見ています。

大豆生田教授は、「男性だからおむつ替えをさせるべきではないというのは、非常に一面的な理解だ。保育士は



国家資格の専門職であり、保育士がどう関わるかは、子どもの発達に関わる重要な問題でもあるが、保育士そのものが社会的には十分な理解をされていないのではないか」と指摘しています。

冷静で幅広い議論に期待

男性保育士は増えてきても、どのような役割を担ってもらうのかといった具体的な議論は、これまで進んできませんでした。

現場を取材してみると、男性保育士は体力があるので活発な遊びもできて子どもたちの人気が高いとか、防犯の面からも男性がいた方が安心といった声も多く聞かれました。

今回をきっかけに、今後、冷静に幅広く議論が進んでいくことを期待したいと思います。

塩崎大臣会見概要 (H29.3.28 (火) 8:39 ~ 8:43 ぶら下がり)

《閣議等について》

(大臣) おはようございます。私からは特にありません。

《質疑》

(記者) 昨日、平成 29 年度の予算が成立しました。一億総活躍プランのメニューも数多く盛り込まれていますが、大臣が特に力を入れていこうと考えていらっしゃる点をお聞かせください。

(大臣) おかげさまで、昨日、29 年度の予算が無事成立しました。改めて感謝申し上げますと思います。様々なものが入っておりますが、今回は何と言っても、去年、一億総活躍プランができて、それを具体化していく予算でありますし、「働き方改革」についても本格的にこれからやっていくということでもあります。「働き方改革」につきましても、今日、実行計画が決まる予定ですが、その延長線上でやっていかなければならないことを 29 年度にやっていくということで、新しい「働く喜びと成長の好循環」、成長しながら社会保障も充実するわけですが、一人一人の働き方は暮らし方そのものでありますので、家庭との両立、子育てとの両立、介護との両立などができるように「働き方改革」についてもしっかりとやっていきたいと思っております。「新三本の矢」の中で、特に今回は保育・介護の処遇改善や受け皿の整備・拡充、両立支援などが大事で、去年、国会でも議論しましたが、保育・介護の処遇改善についても、私達なりの責任を持った財源を用意した上での対応を行えるようになっていくということだと思いますし、地域包括ケアの関連の法案は今日から衆議院で審議入りになります。その関連の予算もあるということで、しっかりとやっていきたいと思っております。

(記者) お話がありましたけれども、介護保険法の改正案が衆議院で審議入りとなりますが、改めて意義と狙いをお聞かせください。

(大臣) 高齢化がさらに進んでいく中にあり、持続可能な介護保険、あるいは制度そのものの維持ができるように、今回、いろいろな手立てを打たせていただいていることが一つであります。もう一つは、今回、障害、あるいは高齢者や子どもの支援などを、まるごとできるような社会福祉法の改正を行うということもありますので、そのような意味で、新しい時代にふさわしい地域での助け合いの仕組みの中でも、特に、高齢者向けの介護の仕組みをしっかりと持続可能なものにしていくための様々な手立てを打つということになっております。特に、厚生労働省、あるいは都道府県だけであるということは難しいので、それぞれの保険者がこういった機能を発揮するということが原点でありますので、医療でもそうでありましたが、介護についてもこれまで以上に保険者機能が発揮できるような仕組みを折り込んでいくということで、しっかりと議論していきたいと思っております。(了)

